

大切な友達

福井県 金津小学校

5年 榎原 夢

わたしには、またいっしょに学校に通いたいと思っている大切な友達があります。

その友達は、理由があり学校に通えていません。友達は近所に住んでいて、前はいっしょに下校したり、放課後もいっしょに遊んだりして仲良しの友達です。

ある日、友達が学校を休みました。わたしは体調が悪いのだと思い、またすぐに学校に来ると思っていました。でも友達は、その日からずっと休む日が続き、わたしも友達と会わなくなり、下校も一人ですることがふえました。

ある日、心配したわたしのお母さんが、

「友達に会いに行ってきたら？」

と言いました。わたしは少しきんちょうしながら友達の家に行き、インターホンをおしました。友達は、げんかんのドアを開けてくれました。家の中に入れてくれたので、わたしは聞いてみました。

「どうして学校に来ないの？」

すると友達は、「まあ……、そのことは……。」と、言いたくなさそうだったので、その話はやめて、前みたいに遊んだり、おしゃべりして楽しく過ごしました。この日から、またいっしょに遊ぶようになっていきました。そして5年生になり、同じクラスになりました。わたしは友達に、

「同じクラスだし、いっしょに学校行かない？」

と聞きましたが、友達は「行かない。」と言いました。

しばらくして、校外学習でカヌーとモルックをすることになりました。わたしは、楽しそうなので友達にも来てほしいと思い、聞いてみました。

「カヌーとモルック、楽しそうだからいっしょに行かない？」

すると、友達は少し考えて、

「わたしとならいっしょに行っていていいよ。」

と言ってくれて、とてもうれしかったです。わたしはお母さんにそのことを伝えると、お母さんは学校へ電話をしてくれました。先生はわたしに、

「声をかけてくれて、ありがとう。」

と言いました。先生は、何度もありがとうと言ってくれました。わたしはただ、友達にも来てほしいと思っただけなのに、先生のうれしそうな声を聞いて、わたしもとてもうれしい気持ちでいっぱいになり、自分のやったことが良いことだったのかな、と笑顔になりました。

校外学習がもっと、楽しみになりました。友達は新しいクラスになって、初めての登校だったので、きんちょうしていましたが、クラスみんなはやさしく話しかけていて、わたしも安心しました。友達も勇気を出して学校に来てくれて、うれしかったです。

今もまだ学校にときどきしか来られませんが、少しずつ来れる日がふえて、いっしょに小学校の思い出をたくさん作れたらいいなと思っています。